当院で取り扱うステロイド薬注射剤

有効成分	エステル型	商品名	規格	力価比		血中濃度半減期	生物学的半減期	対応量	適応症、目的、など
				抗炎症作用（糖質コルチコイド作用）	電解質作用（鉱質コルチコイド作用）				
ヒドロコルチゾン （コルチゾール；内因性ステロイド）	コハク酸	ヒドロコルチゾンコハク酸エステルNa注（販売中止により採用中止予定）	100/300mg	1	1	1.2hr	短時間 8-12hr	20mg	・**コハク酸**エステル型のステロイド注射は、**アスピリン喘息（NSAIDS過敏症）**の患者に使用すると過敏反応を起こすため禁忌。 ・ショック時など、ステロイドホルモンの分泌不全状態でも使用される。
		ソル・コーテフ（新規採用予定）	100/250mg ※250mgの適応は2つのみ。 ①循環不全及びショック様状態における救急 ②気管支喘息						
	リン酸	ヒドロコルチゾンリン酸エステルNa注「AFP」 （＝水溶性ハイドロコートン）	100/500mg						
プレドニゾロン	コハク酸	水溶性プレドニゾロン注	10/20mg	4	0.8	2.5hr		5mg	・**アスピリン喘息**（NSAIDS過敏症）患者は禁忌。
メチルプレドニゾロン	コハク酸	ソル・メドロール	40/125/500/1000mg ※気管支喘息への適応は40mg,125mgのみ。 ※40mg製剤にのみ乳糖（添加剤）を含む。	5	≒0	2.8hr	中間 12-36hr	4mg	・**アスピリン喘息**（NSAIDS過敏症）患者は禁忌。 ・（**40mg製剤**）**乳製品にアレルギー**の既往のある患者には投与禁忌。 ・パルス療法（1日1回1000mg点滴静注を3日間）で使用される。30分～1時間以上かけ緩徐に投与。 ・気管支喘息の場合； 初回量40～125mgを緩徐に静注または点滴静注、症状に応じ40～80mgを4～6時間毎に緩徐に追加投与。
トリアムシノロンアセトニド		ケナコルトA筋注用関節腔内用水懸注	40mg/1ml	5-10	≒0	3-5hr		4mg	・懸濁剤は塞栓を起こす恐れがあるため、静注投与不可。
デキサメタゾン	**リン酸**	デキサート	1.65/6.6mg ※亜硫酸塩含む（添加剤）	25-30	≒0	3.5hr	長時間 36-72hr	0.5mg	・**アスピリン喘息**（NSAIDS過敏症）患者の過敏反応に注意。
ベタメタゾン	**リン酸**	リンデロン	2mg(0.4%) ※亜硫酸塩含む（添加剤）	25-30	≒0	3.3hr		0.5mg	・**アスピリン喘息**（NSAIDS過敏症）患者の過敏反応に注意。